

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	17	政策名	新たな生活圏の創造			
施策コード	4	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備			
幹事部局コード	8	幹事部局名	建設部	担当	建設政策課 企画・広報班	
評価者・実施日	1次評価（建設部長）		平成24年8月3日			

1 施策の方向性（必要性と目的）

日常生活における自動車依存度の高い本県では、生活に密着した道路の整備水準の向上が求められている。このため、県道の整備や渋滞対策等を推進し、県民の日常生活における交通の円滑化を図る。また、高齢者等の交通弱者の交通手段を確保するため、地域の実情に合った効率的で使いやすい生活交通の構築を促進する。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	各市町村役場から30分以内到達圏域の人口比率(単位:%)	96	目標値	96.6	96.8	97.0	97.2	
		H19	実績値	98.6	98.6			
	道路課調べ	—	達成率	102.1%	101.9%			
②	渋滞箇所の解消率(累計)(単位:%)	73.1	目標値	78.8	80.8	82.8	84.8	
		H11	実績値	69.8	69.8			
	道路課調べ	—	達成率	88.6%	86.4%			
③	生活路線(バス等)総延長	3,870	目標値	3,940	3,940	3,940	3,940	
		H11	実績値	3,959	3,952			
	秋田運輸支局調べ	—	達成率	100.5%	100.3%			
達成度				B	B			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

① 県道の整備促進

■取組内容

・市町村役場から30分以内に到達可能な圏域内の人口比率（H17国勢調査人口）の着実な増加を目指す。

■取組の成果

・旧鳥海町を除き、市町村役場から30分以内に到達可能な圏域内の人口比率の増加が達成されている。

■課題と今後の推進方向

・市町村合併の支援として合併拠点間の交流促進を図るためにも、幹線道路の整備を促進していく。

② 渋滞対策の推進

■取組内容

・都市部の慢性的な渋滞の解消を図るため、国や市町村と連携し、バイパスや交差点改良等の整備を推進するとともに、時差出勤やパークアンドライドの導入に向け検討を進める。

■取組の成果

・厳しい財政状況の中でも、秋田中央道路等の供用により渋滞箇所が解消されている。

■課題と今後の推進方向

・渋滞解消による交通の円滑化と安全性の向上は、県内交流の促進、県民の生活空間の確保にとって不可欠であり、今後もバイパスや交差点改良等の整備により渋滞対策を推進する。

③地域の实情に即した生活交通の構築

■取組内容

- ・広域的・幹線的な生活バス路線を維持するため、運行費等を支援するとともに、地域の实情に応じて市町村が導入する交通システムの運行費等を支援した。
- ・三セク鉄道の経営安定化や保安度の向上を図るために必要な経費を助成するとともに、三セク鉄道の利用促進を図るための事業を実施した。

■取組の成果

- ・路線バス利用者の減少により、事業者の運行維持が困難な地域でバス路線の廃止が増加しているものの、これらの地域においては、概ね全て、地域の实情に応じて市町村が運営する生活交通への再構築が図られ、住民の移動手段が確保されている。事業者又は市町村が運営する生活路線（バス等）の総延長は、概ね横ばいで推移している。
- ・三セク鉄道の経営安定化や安全運行の向上が図られたほか、利用促進運動により三セク鉄道の知名度の向上につながった。

■課題と今後の推進方向

- ・マイカーの普及に伴い、路線バス利用者の減少傾向は続いていることから、引き続き事業者及び市町村への支援を継続する。また、運行効率を上げるため、車両の小型化を促進するとともに、利用者利便の確保のため、車両や乗継施設等のバリアフリー化を図る必要がある。
- ・三セク鉄道が沿線住民に欠かせない公共交通機関である限り、経営安定化や保安度の向上は必要である。今後は地域活性化と絡めた利用促進を行い、利用者の増加につなげたい。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況
順調	<ul style="list-style-type: none">・各市町村役場から30分以内到達圏内の人口比率について、着実に推進されており、未達成となっている旧鳥海町の整備を引き続き推進していく。・また、渋滞箇所の解消率向上に向け、渋滞対策協議会において関係機関と連携し、効果的な渋滞対策の推進を図っている。・厳しい財政状況の中であって、各施策とも目標が達成されるなど、施策全体として着実に推進されている。
	<ul style="list-style-type: none">●課題と今後の推進方向・地域間交流を推進するための県内交通基盤の整備は重要な施策であるが、公共事業を取り巻く諸情勢の変化等により、財政的に非常に厳しい状況にあることから、一層の重点化・効率化を図りながら、県内交通90分交通体系の確立、渋滞箇所の解消に向け着実に施策を推進する。・少子高齢化、マイカーの普及に伴い、地域公共交通の利用者の減少傾向が続いている厳しい状況であるが、交通弱者の交通手段を確保する重要な施策であることから、事業主体への支援、利用促進の取組を推進する。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

5 政策評価委員会の意見

--